

俳句通信

特別作品25句 井上康明「黒羽行」

特集 物故俳人の句を読む②

前山松花五十句	選・大崎紀夫
木内彰志五十句	選・木内怜子・木内香月
白井眞貫五十句	選・米山光郎
大橋敦子五十句	選・大橋 暁
品川鈴子五十句	選・鈴木てるみ

【特別寄稿】

朝日俳壇新選者——高山れおな(人物紹介)
筑紫磐井

【3人競詠20句】

杉浦恵子 「合歓の花」
草深昌子 「白」
遠藤由樹子 「孵化」

【エッセイ】

先人に学ぶ俳句 岸本尚毅
俳句とともに 井上康明
兜太再見 柳生正名
神蔵器を読む 南うみを
新しい詩学のはじまり 筑紫磐井
藤田湘子第十句集「神楽」を読む 黒澤あき緒
三橋敏雄「真神」考 北川美美
文学エッセイ——放浪のかたち 酒井佐忠
餅耳草紙 西池冬扇

●作品●石渡 句・鈴木しげを・本井 英・対馬康子・山下美典・中澤康人・岩淵喜代子・
白岩敏秀・源 鬼彦・佐藤文子・河村正浩・森 潮・恒藤滋生・金澤踏青・佐藤公子・
依田善朗 ほか





書齋にて

田丸千種

特別作品25句

黒羽行

井上康明

六月や熔岩ドーム雲を吐き

梅雨しぶく関東平野北上す

なだれ咲く虎杖白き炎とも

夏果ての鉄路縦横無尽なり

梔子の花の折り目の錆びにけり

ひしひしと十葉の白狐塚

特集 俳人故物 の 句を読む②

この20年近くの間には本誌とかかわりの濃い俳人が何人も世を去りました。

それら俳人がどのような句を詠み、どのような道を歩いていたか、を改めて読み、確かめてみたいと思います。それぞれの50句は、俳人と交わりの深かった人たちに選んでいただきました。



ゲスト 大石雄鬼・中西夕紀

仲村青彦・山下知津子

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第46回目です。ゲストは「陸」同人の大石雄鬼さん、「都市」主宰の中西夕紀さん、「予感」主宰の仲村青彦さん、「鱗」同人の山下知津子さん、ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 では始めます。本日は点がばらけましたね。ほとんど入っていますね。では高点句からやっていきます。4点句。

ほととぎす 稜線北へ高まれり

（雄鬼 夕紀）

雄鬼 「稜線北へ高まれり」なのですが、「北へ」というところが「ほととぎす」の鳴く感じとうまく合っているような気がしました。

夕紀 わたしも南より北のほうが、言葉として峻険な感じがします。そこらへんがよいと思いました。

美和子 「高まれり」にちょっと引つかりました。「北へのびにけり」だとスツと分かるんですね。でも「高まる」だと「ほととぎす」の声にも掛かっているような気がする。でも、聴覚と視覚で、ある景を描き出していると思ったので、この景が好きで頂きました。